（別紙）

文　献　等　目　録

【地震関係】

- 壇ほか（２０１１）：「長大横ずれ断層による内陸地震の平均動的応力降下量の推定と強震動予測のためのアスペリティモデルの設定方法への応用」壇一男・具典淑・入江紀嘉・アルズペイマサマン・石井やよい（甲１０６，乙４２）
- 壇ほか（２０１２）：「平均動的応力降下量を用いた長大な横ずれ断層のアスペリティモデルによる強震動の試算と考察」壇一男・具典淑・島津奈緒未・入江紀嘉（乙１５６）
- 壇ほか（２０１６）：「長大断層用の強震動予測レシピの検証（その１）長大横ずれ断層による１９９９年トルコＫｏｃａｅｌｉ地震の事例」壇一男・具典淑・島津奈緒未・藤原広行・森川信之（乙１５８）
- Ｆｕｊｉｉ　ａｎｄ　Ｍａｔｓｕ’ｕｒａ（２０００）：「Ｒｅｇｉｏｎａｌ　Ｄｉｆｆｅｒｅｎｃｅ　ｉｎ　Ｓｃａｌｉｎｇ　Ｌａｗｓ　ｆｏｒ　Ｌａｒｇｅ　Ｅａｒｔｈｑｕａｋｅｓ　ａｎｄ　ｉｔｓ　Ｔｅｃｔｏｎｉｃ　Ｉｍｐｌｉｃａｔｉｏｎ」Ｆｕｊｉｉ，Ｙｏｓｈｉｈｉｒｏ　ａｎｄ　Ｍｉｔｓｕｈｉｒｏ　Ｍａｔｓｕ’ｕｒａ
- 後藤（２０１３）：「１９１１年喜界島近海で発生した巨大地震の震源位置の再評価」後藤和彦（乙１９５）
- 日向灘長期評価（２００４）：「日向灘および南西諸島海溝周辺の地震活動の長期評価　平成１６年２月２７日」地震調査委員会（甲１６１，乙９５）
- 入江（２０１４）：「動力学的断層破壊シミュレーションを用いた内陸横ずれ断層の強震動予測のための震源特性に関する研究」入江紀嘉（甲３２７）
- 入倉・三宅（２００１）：「シナリオ地震の強震動予測」入倉孝次郎・三宅弘恵（甲１２６）
- 神田ほか（２００８）：「豊後水道近傍で発生した歴史的被害地震の地震規模」神

田克久・武村雅之・髙橋利昌・浅野彰洋・大内泰志・川崎真治・宇佐美龍夫

・　加藤ほか（２００４）：「震源を事前に特定できない内陸地殻内地震による地震動レベル－地質学的調査による地震の分類と強震観測記録に基づく上限レベルの検討－」加藤研一・宮腰勝義・武村雅之・井上大榮・上田圭一・壇一男（甲８８，乙２７）

・　松田（１９７５）：「活断層から発生する地震の規模と周期について」松田時彦（甲１０２，乙１５０）

・　Ｍｕｒｏｔａｎｉ　ｅｔ　ａｌ．（２０１５）：「Ｓｃａｌｉｎｇ　ｒｅｌａｔｉｏｎｓ　ｏｆ　ｓｏｕｒｃｅ　ｐａｒａｍｅｔｅｒｓ　ｏｆ　ｅａｒｔｈｑｕａｋｅｓ　ｏｃｃｕｒｒｉｎｇ　ｏｎ　ｉｎｌａｎｄ　ｃｒｕｓｔａｌ　ｍｅｇａ－ｆａｕｌｔ　ｓｙｓｔｅｍｓ」Ｍｕｒｏｔａｎｉ，Ｓ．・Ｓ．Ｍａｔｓｕｓｈｉｍａ・Ｔ．Ａｚｕｍａ・Ｋ．Ｉｒｉｋｕｒａ　ａｎｄ　Ｓ．Ｋｉｔａｇａｗａ（甲８２２）

・　Ｎｏｄａ　ｅｔ．ａｌ（２００２）：「Ｒｅｓｐｏｎｓｅ　ｓｐｅｃｔｒａ　ｆｏｒ　ｄｅｓｉｇｎ　ｐｕｒｐｏｓｅ　ｏｆ　ｓｔｉｆｆ　ｓｔｒｕｃｔｕｒｅｓ　ｏｎ　ｒｏｃｋ　ｓｉｔｅｓ，ＯＥＣＤ－ＮＥＡ　ｗｏｒｋｓｈｏｐ　ｏｎ　ｔｈｅ　ｒｅｌａｔｉｏｎ　ｂｅｔｗｅｅｎ　ｓｅｉｓｍｏｌｏｇｉｃａｌ　ｄａｔａ　ａｎｄ　ｓｅｉｓｍｉｃ　ｅｎｇｉｎｅｅｒｉｎｇ　ａｎａｌｙｓｉｓ」Ｓｈｉｚｕｏ　Ｎｏｄａ・Ｋａｚｕｈｉｋｏ　Ｙａｓｈｉｒｏ・Ｋａｔｓｕｙａ　Ｔａｋａｈａｓｈｉ・Ｍａｓａｙｕｋｉ　Ｔａｋｅｍｕｒａ・Ｓｕｓｕｍｕ　Ｏｈｎｏ・Ｍａｓａｎｏｂｕ　Ｔｏｈｄｏ・Ｔａｋａｈｉｄｅ　Ｗａｔａｎａｂｅ

・　内閣府検討会（２０１２ａ）：「南海トラフの巨大地震による震度分布・津波高について（第一次報告）」平成２４年3月３１日（乙１８５）

・　内閣府検討会（２０１２ｂ）：「南海トラフの巨大地震モデル検討会（第二次報告）強震断層モデル編－強震断層モデルと震度分布について－」平成２４年8月２９日（乙１８６）

・ 奥村ほか（２０１２）:「距離減衰式に基づく地下深部の地震動評価手法に関する検討」奥村俊彦・藤川智・渡邊航平・窪田茂・末広俊夫・玉田潤一郎・藤崎淳（甲３３４）
・ Ｓｏｍｅｒｖｉｌｌｅ ｅｔ ａｌ．（１９９９）:「Ｃｈａｒａｃｔｅｒｉｚｉｎｇ ｃｒｕｓｔａｌ ｅａｒｔｈｑｕａｋｅ ｓｌｉｐ ｍｏｄｅｌｓ ｆｏｒ ｔｈｅ ｐｒｅｄｉｃｔｉｏｎ ｏｆ ｓｔｒｏｎｇ ｇｒｏｕｎｄ ｍｏｔｉｏｎ」Ｓｏｍｅｒｖｉｌｌｅ，Ｐ．Ｇ．・Ｋ．Ｉｒｉｋｕｒａ・Ｒ．Ｇｒａｖｅｓ・Ｓ．Ｓａｗａｄａ・Ｄ．Ｗａｌｄ・Ｎ．Ａｂｒａｈａｍｓｏｎ・Ｙ．Ｉｗａｓａｋｉ・Ｔ．Ｋａｇａｗａ・Ｎ．Ｓｍｉｔｈ ａｎｄ Ａ．Ｋｏｗａｄａ
・ 髙橋ほか（２００８）:「１７世紀以降に芸予地域に発生した被害地震の地震規模」髙橋利昌・浅野彰洋・大内泰志・神田克久・武村雅之・宇佐美龍夫
・ 中央防災会議（２００３）:「東南海，南海地震等に関する専門調査会（第１６回），東南海，南海地震に関する報告（案）図表集，平成１５年１２月１６日」
・ 藤堂ほか（２０１２）:「長大な横ずれ断層による内陸地震のアスペリティモデル設定方法の中央構造線への応用と強震動の試算」藤堂正喜・壇一男・具典淑・入江紀嘉・呉長江（乙１５７）
・ 予測地図（２０１４）:「全国地震動予測地図２０１４年版～全国の地震動ハザードを概観して～　平成２６年１２月地震本部地震調査委員会」（甲９２，乙１７１）

【火山関係】

・ Ａｂｅ ｅｔ ａｌ（2017）:「Ｌｏｗ－ｖｅｌｏｃｉｔｙ ｚｏｎｅｓ ｉｎ ｔｈｅ ｃｒｕｓｔ ｂｅｎｅａｔｈ Ａｓｏ ｃａｌｄｅｒａ，Ｋｙｕｓｈｕ，Ｊａｐａｎ， ｄｅｒｉｖｅｄ ｆｒｏｍ ｒｅｃｅｉｖｅｒ ｆｕｎｃｔｉｏｎ ａｎａｌｙｓｅｓ」Ｙ．Ａｂｅ・Ｔ．Ｏｈｋｕｒａ・Ｔ．Ｓｈｉｂｕｔａｎｉ・Ｋ．Ｈｉｒａｈａｒａ・Ｓ．Ｙｏｓｈｉｋａｗａ ａｎｄ Ｈ．Ｉｎｏｕｅ．（乙４１７）
・ 藤井（２０１６）:「わが国における火山噴火予知の現状と課題」藤井敏嗣（甲６

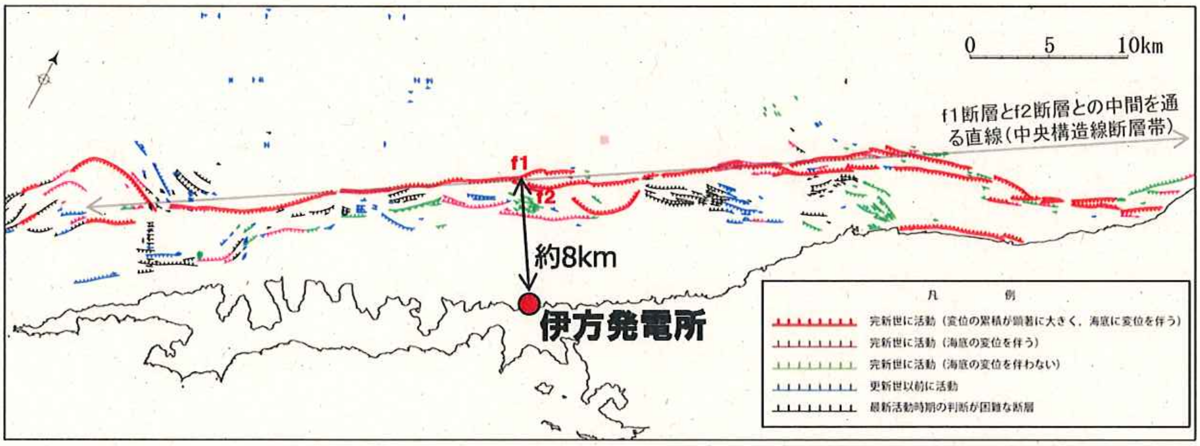
５３）
- 小林（２０１７）：「カルデラ噴火の前兆現象に関する地質学的研究」小林哲夫（乙３７２）
- 町田・新井（２０１１）：「新編火山灰アトラス［日本列島とその周辺］」町田洋・新井房夫
- 三好ほか（２００５）：「阿蘇カルデラ形成後に活動した多様なマグマとそれらの成因関係について」三好雅也・長谷中利昭・佐野貴司（乙１３２）
- Ｎａｇａｏｋａ（１９８８）：「Ｔｈｅ ｌａｔｅ Ｑｕａｔｅｒｎａｒｙ ｔｅｐｈｒａ ｌａｙｅｒｓ ｆｒｏｍ ｔｈｅ ｃａｌｄｅｒａ ｖｏｌｃａｎｏｅｓ ｉｎ ａｎｄ ａｒｏｕｎｄ Ｋａｇｏｓｈｉｍａ ｂａｙ，ｓｏｕｔｈｅｒｎ Ｋｙｕｓｈｕ，Ｊａｐａｎ．：Ｎａｇａｏｋａ，Ｓ．（１９８８），Ｇｅｏｇｒａｐｈｉｃａｌ Ｒｅｐｏｒｔｓ ｏｆ Ｔｏｋｙｏ Ｍｅｔｒｏｐｏｌｉｔａｎ Ｕｎｉｖｅｒｓｉｔｙ，２３，４９－１２２．」
- 長岡ほか（２０１４）：「九重火山のテフラ層序」長岡信治・奥野充
- 日本第四紀学会編（１９８７）：「日本第四紀地図」
- 大倉（２０１７）：「測地学的手法による火山活動の観測について」大倉敬宏（乙３４７）
- Ｓｕｄｏ ａｎｄ Ｋｏｎｇ（２００１）：Ｔｈｒｅｅ－ｄｉｍｅｎｔｉｏｎａｌ ｓｅｉｓｍｉｃ ｖｅｌｏｃｉｔｙ ｓｔｒｕｃｔｕｒｅ ｂｅｎｅａｔｈ Ａｓｏ Ｖｏｌｃａｎｏ，Ｋｙｕｓｈｕ，Ｊａｐａｎ：Ｓｕｄｏ，Ｙ．ａｎｄ Ｌ．Ｓ．Ｌ．Ｋｏｎｇ（２００１），Ｂｕｌｌ．Ｖｏｌｃａｎｏｌ．，６３，３２６－３４４
- 須藤ほか（２００７）：「わが国の降下火山灰データベース作成」須藤茂・猪股隆行・佐々木寿・向山栄
- 高倉ほか（２０００）：「ＭＴ法による阿蘇カルデラ比抵抗断面」高倉伸一・橋本武志・小池克明・小川康雄

以　上

（別表）　　　　　　　　基準地震動Ｓｓの最大加速度

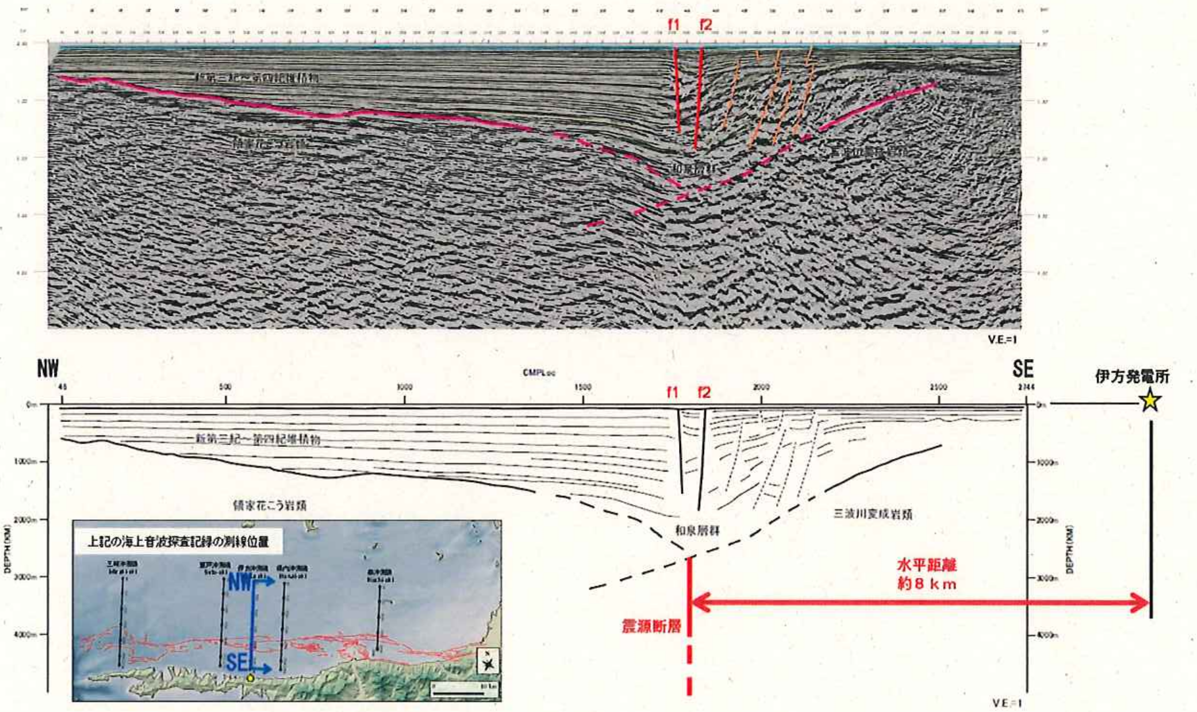
基準地震動Ss						最大加速度振幅 (cm/s^2)
震源を特定して策定する地震動	応答スペクトルに基づく手法による基準地震動Ss	設計用模擬地震波		水平動	Ss-1H	650
				鉛直動	Ss-1V	377
	断層モデルを用いた手法による基準地震動Ss	敷地前面海域の断層群（中央構造線断層帯）	480km連動・壇の手法・⊿σ20MPa・西破壊	水平動NS成分	Ss-2-1NS	579
				水平動EW成分	Ss-2-1EW	390
				鉛直動UD成分	Ss-2-1UD	210
			480km連動・壇の手法・⊿σ20MPa・中央破壊	水平動NS成分	Ss-2-2NS	456
				水平動EW成分	Ss-2-2EW	478
				鉛直動UD成分	Ss-2-2UD	195
			480km連動・壇の手法・⊿σ20MPa・第1ｱｽﾍﾟﾘﾃｨ西破壊	水平動NS成分	Ss-2-3NS	371
				水平動EW成分	Ss-2-3EW	418
				鉛直動UD成分	Ss-2-3UD	263
			480km連動・F&Mの手法・⊿σ1.5倍・西破壊	水平動NS成分	Ss-2-4NS	452
				水平動EW成分	Ss-2-4EW	494
				鉛直動UD成分	Ss-2-4UD	280
			480km連動・F&Mの手法・⊿σ1.5倍・中央破壊	水平動NS成分	Ss-2-5NS	452
				水平動EW成分	Ss-2-5EW	388
				鉛直動UD成分	Ss-2-5UD	199
			480km連動・F&Mの手法・⊿σ1.5倍・東破壊	水平動NS成分	Ss-2-6NS	291
				水平動EW成分	Ss-2-6EW	360
				鉛直動UD成分	Ss-2-6UD	201
			54km・入倉・三宅の手法・⊿σ1.5倍・中央破壊	水平動NS成分	Ss-2-7NS	458
				水平動EW成分	Ss-2-7EW	371
				鉛直動UD成分	Ss-2-7UD	178
			480km連動・壇の手法・⊿σ20MPa・中央破壊・入れ替え	水平動NS成分	Ss-2-8NS	478
				水平動EW成分	Ss-2-8EW	456
				鉛直動UD成分	Ss-2-8UD	195
震源を特定せず策定する地震動		2004年北海道留萌支庁南部地震を考慮した地震動		水平動	Ss-3-1H	620
				鉛直動	Ss-3-1V	320
		2000年鳥取県西部地震賀祥ダムの観測記録		水平動NS成分	Ss-3-2NS	528
				水平動EW成分	Ss-3-2EW	531
				鉛直動UD成分	Ss-3-2UD	485

（別紙図面１）



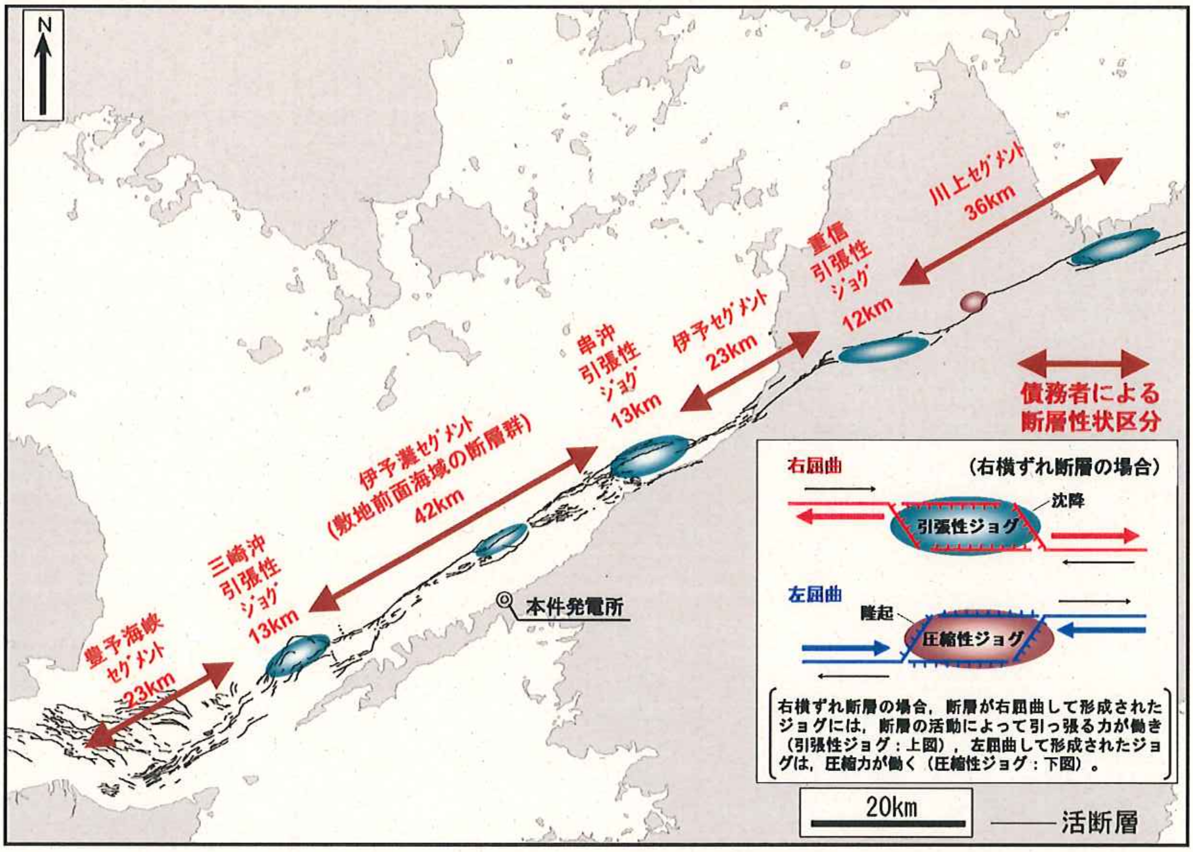
中央構造線断層帯の震源断層の位置について

（別紙図面２）



海底下深部の音波探査記録（縦横比１：１）

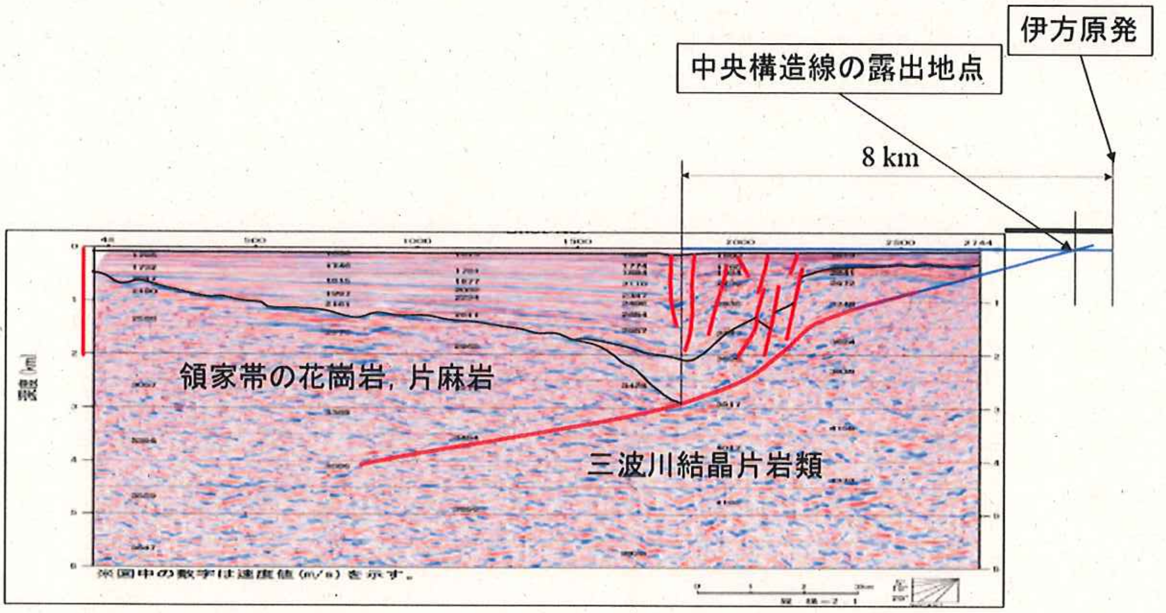
（別紙図面３）



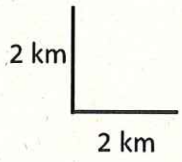
債務者の調査による四国北西部における中央構造線断層帯の区分

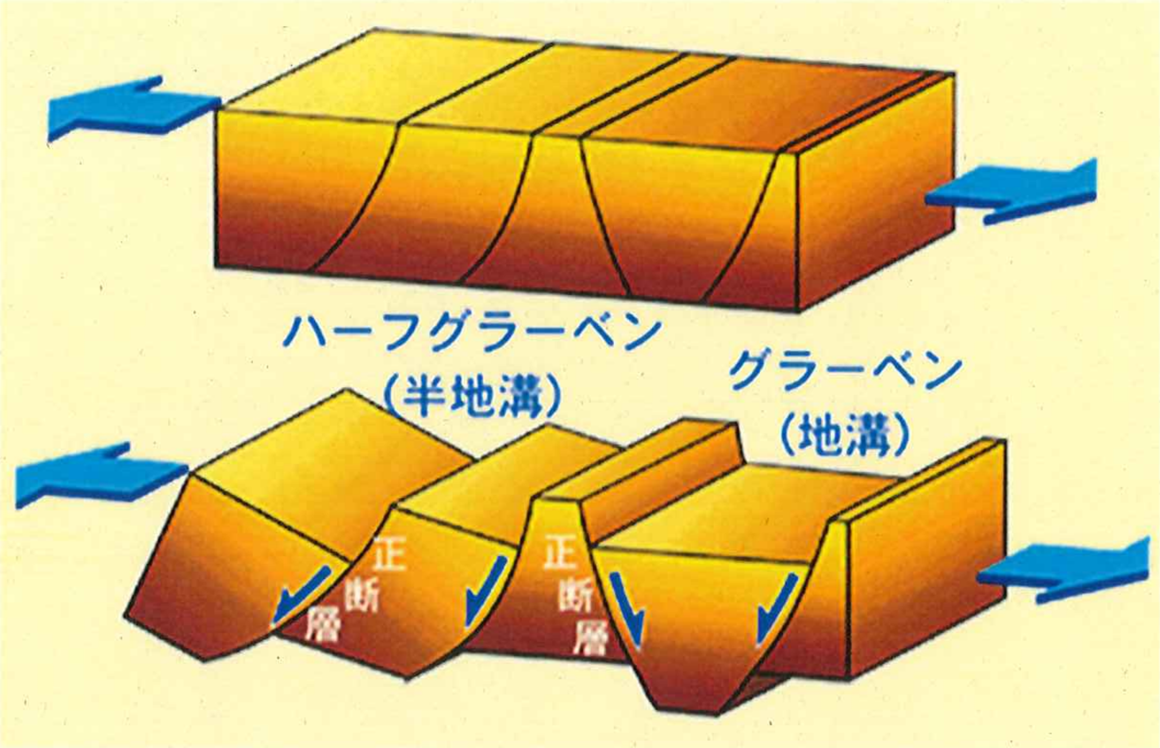
（別紙図面４）

中央構造線は伊方原発の 600～800 m 沖を通る



伊方沖測線 Cの深度断面
四国電力（2014）に加筆



26

（別紙図面５）